

背景

・被害者の中には避難警報が出ているのにも関わらず、避難しなかったことで命を落とした人もしばしば。

正常性バイアスの影響

目的

- ・避難警報に対する意識の把握
- ・避難警報が出ても避難しない人の心理状態

結論

避難を促すメディアの **情報の提示の仕方** が避難率に差を生じさせる。
従来とは異なる避難警報作りをしていくことが避難率向上、災害による死者の減少に貢献できると予測できた。
また、一人一人が常に避難意識をもって行動することは個人の命を守ることに繋がると考えられる。

調査

調査方法

災害時の避難に関するアンケートを取り、避難時の行動の仕方の傾向を調査。避難率向上には何が求められるか分析した。

アンケート①.

- 「①-1: 公共の場で災害警報が鳴った時どのような行動をとるか
- ①-2: その理由」

アンケート②.

「どれが一番避難したくなるか」

結果と考察

結果①

- ・真っ先に避難するという意識の人は多くなかった
- ・理由として誰も避難しないからという理由が多かった



考察①: 個人では避難意識を持たない人が多い可能性があるため、他者の行動に依存した避難行動を見直す避難教育も避難率向上に貢献すると予想できる。

結果②

- ・津波到達時刻を提示するもの(1)は票が多かった
- ・情報がなく不確実なもの(2)は票が少なかった



考察②: 警告画面を見て、時間や場所などの **具体的な情報** がすぐ分かるものは避難意識が感化されやすい。逆に情報がなければ、大丈夫と思い込んで避難しない人が多いと予想できる。

アンケート②で実際に使用した画像



↑ 1 津波到達予想地域に対して、津波到達予想時刻を提示するもの



↑ 3 警報画面において、具体的な情報に加え不確実性を提示するもの



↑ 2 津波到達予想地域に具体的な情報なしで避難を促すもの



↑ 4 警報画面において、その地域ごとの避難所を代わるがわる表示するもの

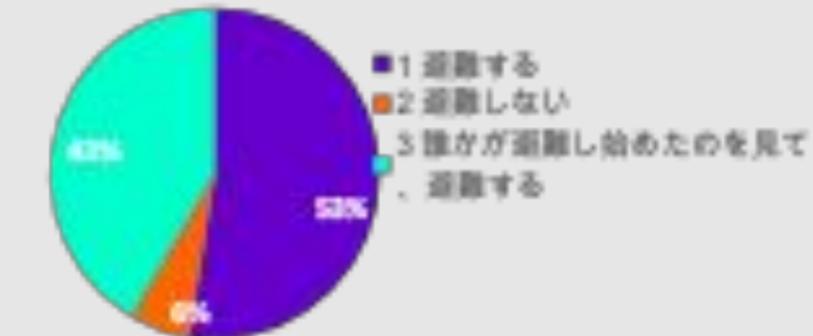


図1 アンケート①-1結果

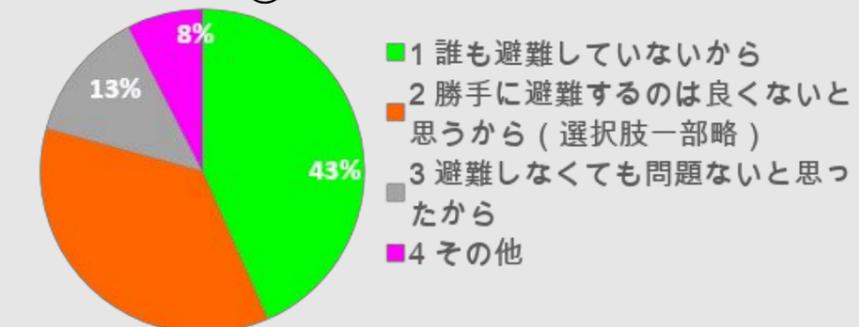


図2 アンケート①-2結果

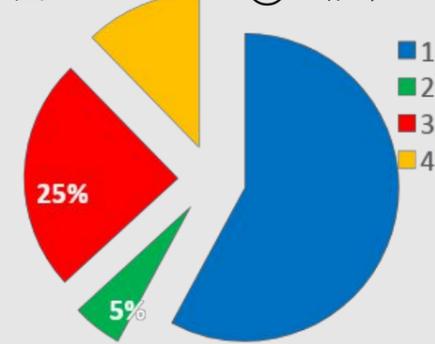


図3 アンケート②結果

アンケート結果

回答人数

①-1 117人

①-2 ①-1で2、3を選択した53人

② 57人

参考文献

○ <https://note.com/sezakinoutput/n/n15311e70be35>

『「利他性」が「正義性バイアス」をぶっ壊す』

○ <https://toyokeizai.net/articles/-/290914?page=3>

『避難指示が出ても逃げ遅れてしまう人の心理』

○ <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/57510>

『きちんと逃げる。』

○ なぜ逃げない? 災害大国の日本が陥りやすい「正常性バイアス」問題

著 広瀬弘忠 出版 アスペクト 2011年9月